

教材活用シリーズ 第 146 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

ミライにつながる新しい生活ノート

(株)浜島書店
中学校用生活ノート
『ミライパスポート』



(株)浜島書店
編集部 生活ノート担当

『ミライパスポート』（以下…ミライパス）は、中学校用の生活ノートです。生活ノートの主な機能は毎日の記録・備忘録です。しかし『ミライパス』はそれだけにとどまらず、社会生活に必要な P D C A のエッセンスを取り込み、生徒のミライにつながる未来志向の生活ノートとして設計しました。

本記事では、『ミライパス』の企画・編集に携わるなかで特にこだわった二点、「直感的な使いやすさ」「ミライにつながる仕組み」を中心に紹介します。

1. 直感的な使いやすさ

生活ノートは生徒が毎日開いて使用するものです。そのため、使いやすさについては試作を重ねながら徹底的にこだわりました。

毎日開く通常ページ【図1】は、記入スペースだけを白く残し、記入すべき場所がはっきりとわかるようにデザインしました。『ミライパス』は全体を通して、最小限の説明で直感的に使えるデザインを目指しています。

通常ページの大部分を占める時間割にも工夫を施しています。資料集やワークなど必要な



▲【図1】通常ページ
直感的な使いやすさを重視してデザインした。

持ち物に○をつけて記録する工夫はほとんどの生活ノートに見られる工夫ですが、『ミライパス』は特別な持ち物が必要ない日に○をつける「いつもの」という項目を設けました。ご使用中の先生からも「生徒の実態に合っている」とご好評の声をいただいています。

時間割の下には、ひとこと分の記録ができる「つぶやき」欄を設けました。こちらは生徒が日々感じたことを書いたり生徒と先生の交流に使ったりするスペースです。とはいえ、毎日書くとなると話題を探すのにも苦労するものです。無理なく続けられる記述量に設定すると同時に、**つぶやき記入の参考になる「今週のハッシュタグ」**を用意しました。ご使用中の先生からは「生徒は上手にハッシュタグの話題を選んで書いている」「話題に困ったらハッシュタグを

▼【図2】しおり
巻末にとじ込まれているため、失くしてしまう心配がない。



ら記入したりすることができません。

2. ミライにつながる仕組み

現行の学習指導要領では、生徒自身が課題を設定して取り組み、それをふり返る活動が求められています。『ミラパス』はPDCAのエッセンスを取り入れ、「目標→ふり返り」の習慣を身につけられるよう、通常ページに「やること&がんばることリスト」を設けました。【図3・4】

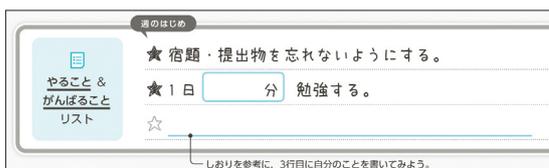
まず、週のはじめに「がんばること」として目標を設定します。目標の設定が難しい生徒は、「がんばること」ではなく「やること」を記入して備忘録的に使うことができます。週の終わりには各目標についてふり返りを行うのですが、「○をつけるだけ」「選ぶだけ」「単語・短文を書くだけ」のように徹底して負担感を減らし、「年生であつても「これならやれそう!」と思っただけのような構成にしました。

また、どのような目標を書けばよいか、悩む生徒も多いと考えました。巻末のしおりに「や

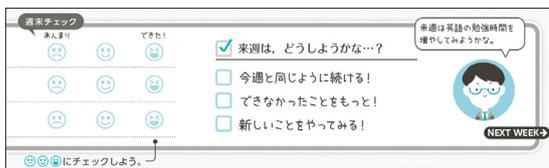
参考にしていく様子です」とのお声をいただいています。

巻末には「しおり」【図2】を設けました。提出時に挟んで使ったり、時間割を確認しながら

▼【図3】週のはじめ（左ページ）
生徒が自由に目標を設定することもできる。



▼【図4】週末チェック（右ページ）
三種類の手軽な形式で、負担感なくふり返りを行うことができる。



ること&がんばること」の文集を設け、誌面QRコードからリンクするWebページ上に登場キャラクターごとの豊富な記入例を用意しました。【図5】



▲【図5】Web 記入例
誌面のQRコードから気軽に閲覧できる。



また、「目標→ふり返り」を積み重ねた記録はキャリアパスポートの記入に活用できます。学期中に書いた「やること&がんばることリスト」や「つぶやき」を見ながらキャリアパスポ

ト記入の準備ができるよう、巻末に学期のふり返りページを設けました。【図6】



▲【図6】学期のふり返りページ
『ミラパス』で書きためた「目標→ふり返り」の記録をキャリアパスポートに活かすことができる。

3. 結びにかえて

お伝えしてきたように、『ミラパス』は直感的な使いやすさと、「目標→ふり返り」活動に負担なく取り組める仕組みをもった生活ノートです。そうしたこだわりとともに、「毎日開く中学生にとって親しみやすいものを」と常に意識しながら作りました。書名やデザイン、ハッシュタグなどから感じ取っていただければ、編集担当としてこの上ない喜びです。

本書が充実した中学校生活の助けとなり、その名の通り、生徒一人ひとりの実現したいミライにつながるパスポートになればと願っております。